の多年草で，本州中北部の高地に分布する．秋田県皆瀬村でミヤマホタルイを観察したところ，倒伏して水没した前年の稈の先端に子株を付けた個体があった（Fig. 1）．子株を付けた稈は枯れていたが，子株には長いもので約10 cmに伸びた8本の稈があり，基部から発根していた．これは貫生prolificationによって稈の先端の花序の付く位置に無性芽が生じて水中で成長したものと見られる．フトイ属*Schoenoplectus* (Rchb.) Pallaに近縁なハリイ属*Eleocharis* R.Br.でも貫生によって無性芽が生じて繁殖する種があるが（角野1994），フトイ属では知られていなかったので実例を報告する．

引用文献

角野康郎1994．日本水草図鑑．178 pp. 文一総合出版，東京．

（東北大学大学院理学研究科附属植物園）

新　刊

□Landolt E., Jäger-Zürn I. and Schnell R. A. A.: **Extreme Adaptation in Angiospermous Hydrophytes** 290 pp. 1998. Gebrüder Borntraeger Verlagsbuchhandlung, Berlin. DM 198.00.

水生植物は多数の分類群にまたがっている．生育環境も種によってかなり異なっているのみならずその形態においても幅広い多様性を示す．本書では地上に生育する一般の植物との形態差が大きい3つの科（ウキクサ科Lemnaceae, Hydrostachyaceae, カワゴケソウ科Podostemaceae）を例にあげて形態を中心に，分類，系統について詳述している．ただし，Podostemaceaeはフランス語で書かれている．このような形態分類の教科書は英語で書いてもらいたいというのはフランス語が読めない評者の愚痴である．

ウキクサ科の極端に単純化した体制については何人もの植物学者が植物器官学の立場から解釈を試みており，本書はそれらを紹介している．いずれの説が正しいか結論づけてはいないが，ウキクサ科の場合は発生過程の後半が省略されていることは明瞭であるとしている．本書では植物のスケッチ，形態の模式図，組織解剖図，電顕写真，顕微鏡写真などふんだんに使っており本文の理解を助けている．この教科書を読めば，これらの水生植物が一般の植物とどこが似ていて，どの形質が極度に進化または特殊化したかはっきりしてくる．自然環境が悪化し奇麗な池や沼が少なくなり，水生植物の生活場所が失われつつある現在，水生植物の植物学的な面での理解を深めることで自然資源の大切さをあらためて認識させられる思いである．（寺林　進）

□熊野　茂：**世界の淡水産紅藻**　i-xiv+395 pp. 2000. 内田老鶴圃．￥28,000（税別）．

世界の淡水産紅藻誌である．扱う分類群は紅藻綱，9目，16科，26属，218種・変種で，目，科，属に簡潔な定義と命名上基準となる科名，属名，種名等が記され，さらに科ごと，属，あるいは属内のグループ（群）ごとに，属，種等の検索表が添えられている．各分類群には特徴を示す図や写真が多く挿入されて記述の理解を助け，調べようとする種の同定を容易にしている．著者の熊野茂博士は淡水藻類，特に紅藻カワモズク属の分類をライフワークとして永年神戸大学理学部に勤務した藻学者である．

本書は目次に続いて，世界の淡水紅藻研究の歴史の概説と本書に収録した属の検索表があり，その後に上記の分類群の記述が317ページに亘って続く．ここでは異名，記相，基準産地，基準標本の保管場所，地理的分布などがのべられ，種によっては類似種との区別点など分類学上のノートが付記されている．巻末には命名に関する略語，関係のある標本室略号，関連する学術用語集（日本語の部，英語の部）が添えられ，それは17ページに及び，初心者の便に供されている．引用及び参考文献は1999年までの900余篇がリストされている．本書は英文・和文併記の原稿が既に完成しており，その早期の出版が望まていたが，事情により日本語版の出版が先となったものである．世界的規模の淡水産紅藻誌の